

第4回 構造改革シンポジウム 開催

平成25年2月1日に企画委員会主催「第4回構造改革シンポジウム」が経団連会館ダイヤモンドホールにおいて開催され、過去最高の157名が参加し、半数近くを経営者の参加が占めた。

本シンポジウムは、事業環境変化に対応するための業界レベルの課題への取組を進めるJISAの活動からは視点を変えて、業界構造変化への対応を進める上での気づきを提供することを目的として開催してきた。第4回となった今回は、「SI業界における新ビジネスモデルのチャレンジ」を統一テーマに掲げた。

情報システム業界が、魅力と存在感のある産業になるためには、また、社会から期待される産業になるためにも、単に顧客や社会に向けて、「要求されたものを作る」だけのポジションから脱皮していく必要がある。

SI業界におけるこの古くて新しい課題に対し、ビジネスモデルという観点にフォーカスし、その解決の糸口を探ることとした。顧客企業との新しい関係を構築することにより、双方にメリットがあるような形はとりうるのか。そもそも顧客市場は今見えているものだけなのか、など、転換点にある我が産業の明日を切り開くために、我々はどのようなリスクをテイクし、どのようなチャレンジを行うべきなのか。今回のシンポジウムでは、下記のプログラムを設定し、新ビジネスモデルにより市場創造を行う具体的な試みをご紹介します、その課題や展望について議論を行った。

プログラム

開会挨拶 島田俊夫 副会長・企画委員会委員長

基調講演

「ネスレ日本のBusiness Redesign ～成熟先進国モデルへの挑戦～」

ネスレ日本(株) 代表取締役社長兼 CEO 高岡 浩三 氏

パネルディスカッション：

「情報システム業界における新しいビジネスモデルのチャレンジとその課題」

コーディネータ：

「SI事業における新たなビジネスモデルのススメ」

ITホールディングス(株)

執行役員 事業推進本部長 荒野 高志 氏

当日は、島田企画委員会委員長が開会挨拶として、認識を共有することを狙いとして構造改革の必要性を説明し、自らの行動してほしいと改めて訴えた。

基調講演では、ネスレ日本(株)の高岡社長に、スイス企業のグローバルなビジネス展開、生え抜き経営者の立場で進めてこられた事業戦略とこれを支える組織・人事戦略についてご講演いただいた。

パネリスト：

「成果報酬型モデル」

アクセント (株) シニア・マネジャー 稲川 直樹 氏

「納品のない受託開発」にみるソフトウェア受託開発の未来
～ソニックガーデンのビジネスモデル～

(株) ソニックガーデン 代表取締役社長 CEO 倉貫 義人 氏

「業界コンソーシアムパッケージ」

(株) システムインテグレータ 代表取締役社長 梅田 弘之 氏

パネルディスカッションでは、コーディネータの荒野氏から、ビジネスモデルを変えるためのヒントを事例から学ぼうとの問題提起があった。次に、パネリストとして、アクセントの稲川氏、ソニックガーデンの倉貫氏、システム

インテグレータの梅田氏から、自身で手掛けられてきたビジネスモデルに関するショートプレゼンが行われた。

最後に、前回までと同様に、コミュニケーションシートによる会場からの質問も交えながら、ディスカッションが行われ、トップが決断して進めることの重要性が強調されて締め括られた。

(田中)